令和６年度

シラバス（普通教科）

～ １ 年 ～

鹿児島県立伊佐農林高等学校

１年　普通教科

国　　語・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１

地歴公民・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４

数　　学・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７

理　　科・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ９

保健体育・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ11

芸　　術・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ16

外 国 語・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ23

家　　庭
　農林技術科・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ25
　生活情報科・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ28

（新課程用）

国語 言語文化	単位数	2単位
	学科・学年	農林技術科　生活情報科・第1学年

1　学習到達目標等

学習の到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，言語感覚を磨き，進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書　「新編言語文化」大修館書店 補助教材「漢字検定5級～2級＋短文書写 実践文字力 トリプルチェック」

2　学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学期	単元名 学習内容	月	学習のねらい 評価規準	備考 (学習活動の特記事項他)	考査
学期	ことばと出会う 「言葉の森を育てよう」	4	・言葉についての筆者の考えを読み取り，言葉が果たしている役割を理解する。 ・日常使っている言葉を見つめ直す。		中間考査
	表現を味わう 「水かまきり」	5	・文学作品の描写や会話，特徴のある表現を味わい，登場人物の人間関係や心理を読み取る。 ・オノマトペの表現効果をとらえる。		期末考査
	古文に親しむ 「古文への招待」「いろはカルタの世界」「古文冒頭選」 「児のそら寝」 『十二の「子」文字』	6 7	・古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。 ・繰り返し音読し，古文の読みに慣れる。 ・児と僧たちの行動，心情の移り変わりを読み取る。 ・誰の発言かに注意し，物語の内容を読み取る。 ・漢字の読みと日本の言語文化についての理解を深める。		
	詩歌を楽しもう		・詩歌や俳句を読み味わい，自分でも表現する。	俳句作成	
	【課題・提出物等】　休業中の課題，授業ノート，補助教材，テスト訂正，ワークシートなど				
	【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
二学期	漢文に親しむ	9	・漢文の訓読のきまりについて理解する。 ・漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。		中間考査
	現代に生きることば	10	・「株を守る」という言葉の意味について，考えを深める。 ・この話で語られている教訓の意義を理解する。 ・「五十歩百歩」という言葉の意味について，考えを深める。		

			・この話で語られている教訓の意義を理解する。 ・「蛇足」という言葉の意味について，考えを深める。 ・この話で語られている教訓の意義を理解する。 ・「虎の威を借る狐」という言葉の意味について，考えを深める。 ・この話で語られている教訓の意義を理解する。		期末考査
	文化を見つめる 「足し算の文化」	11	・日本文化の特徴について，筆者の主張をとらえる。 ・身のまわりの例を探しながら，日本文化の特色について理解を深める。		
	物語を受け継ぐ 「羅生門」	12	・小説の構成をとらえ，登場人物の心情の変化を読み取る。 ・元になった古典作品との比較をふまえて，内容の解釈を深める。		
	【課題・提出物等】　休業中の課題，授業ノート，補助教材，テスト訂正，ワークシートなど				
	【２学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
三学期	旅への思い	1	・文章の展開や和歌の内容に注意して，登場人物の心情を読み取る。 ・文章の展開に即して作者の心情を読み取る。 ・当時，物語や書物がどのように享受されていたか考える ・音読して文体の特徴をとらえ，文章の内容を読み取る。		学年末考査
	漢文を楽しむ	2	・文と句の関係に注意して，それぞれの句に詠まれた情景や心情を考える ・音読を通して漢文訓読の口調に習熟する。 ・古人が示した知恵や教訓について，正確に理解する。		
		3	・音読を通して，漢文訓読の口調に習熟する。 ・豊かな人間性の表れた物語を読み味わい，表現の特徴を理解する。		
	【課題・提出物等】　休業中の課題，授業ノート，補助教材，テスト訂正，ワークシートなど				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				

【年間の学習状況からの評価方法】
※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に５段階の評定にまとめる。

（2）評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができたか。	定期考査 発問 ノート 課題
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができたか。	定期考査 発問 ノート ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち，言葉を通して他者や社会に関わろうと態度を持つことができたか。	授業への取り組み 発問

【観点別学習状況の評価】
「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・・・・A
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・・・B
「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・・・・・・・・C

3　担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・授業中の発問に対してしっかり考えましょう。 ・ノートには板書事項だけでなく，自分で考えたことや疑問に思ったことも記入しましょう。 ・予習をして授業に臨み，授業後は復習をしましょう。(教科書を読む，わからない語句の意味を調べる，など) ・「なぜ」と思ったことは，質問したり，調べたりしましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・教科書，ノート，漢字テキストなどの教材を忘れないこと。 ・提出物はしっかりと取り組み，期限を守って提出すること。 ・説明を聞く，学習内容を書く，といった学習活動の切り替えをしっかり行うこと。 ・授業内容をしっかりとノートにとること。
その他	

（新課程用）

地理総合	単位数	3単位
	学科・学年	農林技術科・生活情報科　第1学年

1　学習到達目標等

学習の到達目標	社会的事象の地理的見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
使用教科書・副教材等	帝国書院　『高校生の地理総合』 帝国書院　『高校生の地理総合ノート』 帝国書院　『新詳高等地図』

2　学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学期	単元名 学習内容	月	学習のねらい 評価規準	備考 (学習活動の特記事項他)	考査
1学期	地球儀と地図 地図と地理情報システム 国家と領域 世界の地形と人々の生活 ①生活と地形 ②河川がつくる地形 ③海岸地形 ④氷河・カルスト・乾燥地形 世界の気候と人々の生活 ①熱帯 ②乾燥帯 ③温帯 ④亜寒帯・寒帯	4 5 6 7	地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や，地図や地理情報システムを利用する技能を身につけている。 世界を構成する国家の領域の定め方，地図を通して世界の国々の結びつき方，交通，通信，人の移動の特徴を理解している。 世界各地で見られる地形は，どのように形成され，人々の生活とどのように関わっているかを理解している。 世界各地の気候の特色や生活との関わりについて理解している。		中間考査 期末考査
	【課題・提出物等】　・授業態度・発問評価・提出課題・ノート点検・定期考査				
	【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
二学期	世界の産業と人々の生活 ①農業　②工業 世界の宗教・民族・言語 多様な生活文化と地理的環境 〔自然環境〕乾燥地域（中央アジア・西アジア・北アフリカ） 〔産業〕産業技術の発展（アメリカ） 〔宗教・歴史〕開発の歴史	7 9 10 11	産業の発展が人々の生活にどのような影響を与えてきたかを理解している。 宗教や言語といった文化が，民族というまとまりの形成や，人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 気候・風土が深く関係して，ある地域の生活と文化とその特徴が形成されることについて理解している。 移民とそれを受け入れてきた社会の活力が，世界の人々に影響を与える文化や産業を生み出してきたことについて理解している。 ヨーロッパ人の進出が人々の		中間考査

	（ラテンアメリカ） 〔結びつき〕オセアニア 自然環境と防災	12	生活や文化に影響を与えてきたことについて理解している。 アジアとの交流の深まりが，人々の生活や国の産業に影響を与えていることについて理解している。 自然災害が生じる場所と要因，日本の自然災害の特徴，生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解する。		期末考査
	【課題・提出物等】　・授業態度・発問評価・提出課題・ノート点検・定期考査				
	【２学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
三学期	人口問題 食糧問題 資源・エネルギー問題 生活圏の調査と地域の展望	1 2 3	世界のどこで，どのような人口問題が生じているのかについて理解している。 世界と日本でどのような食料問題が生じているのかについて理解している。 資源・エネルギーの生産地と消費地は，それぞれ地域的に偏在していることについて理解している。 事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや，現地調査の結果をどのように分析・整理するのか，他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。		学年末考査
	【課題・提出物等】　・授業態度・発問評価・提出課題・ノート点検・定期考査				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に５段階の評定にまとめる。					

（２）評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	地理に関わる諸事象に関して，世界の生活文化の多様性や，防災，地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに，地図や地理情報システムなどを用いて調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・　定期考査
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存関係，地域などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。	・　定期考査 ・　課題，宿題 ・　発表 ・　ノート
	地理に関わる諸事象について，よりよい社会	・　授業への参加の仕方

主体的に学習に取り組む態度	の実現を視野にそこで見られる課題を追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める	や態度 ・　課題，宿題 ・　ノート ・　発表

【観点別学習状況の評価】
「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・・・・A
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・・・B
「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・・・・・・・・C

3　担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・　日々の授業を大切にし，ノートをしっかりとる。 ・　ノートには板書事項だけでなく，自分で考えたこと，感じたこと，疑問に思ったこともメモしておく。 ・　毎時間最低 10 分間の復習を行う。 ・　「なぜ」と思ったことは，質問したり，調べたりする。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・　ノートは毎授業しっかりとること。毎回その都度提出すること。 ・　教科書，ノートには記名し，授業が始まる前には机上に準備しておく。 ・　ノート，課題などの提出物は，指定された期日までに指定された方法で提出する。
その他	

（新課程用）

数学Ⅰ	単位数	3単位
	学科・学年	農林技術科・生活情報科　第1学年

1　学習到達目標等

学習の到達目標	1．基礎・基本的な計算問題を繰り返し練習することによって，基礎的な計算の習得と技能の習熟を図る。 2．図形やグラフを学習することによって，事象を数学的に考察する能力を培う。 3．多くの練習問題を解くことによって，発展的な考え方ができる。
使用教科書・副教材等	・高校数学Ⅰ（実教出版） ・高校数学Ⅰ専用スタディノート（実教出版）

2　学習計画及び評価方法等
（1）学習計画等

学期	単元名 学習内容	月	学習のねらい 評価規準	備考 (学習活動の特記事項他)	考査
一学期	ウォームアップ 1章　数と式 1節　整式 ①文字を使った式のきまり ②整式 ③整式の加法・減法 ④整式の乗法 ⑤乗法公式による展開 ⑥因数分解 2節　実数 ①平方根とその計算 ②実数	4 5 6 7	四則計算や中学校までに学習した数や式の計算が確実にできるようになる。 文字式のきまり，整式で使われる用語の意味を理解できるようになる。また，指数法則を理解し，式の展開ができるようになる。 乗法公式を用いて，多項式が展開できるようになる。 中学校で学習した因数分解を復習する。因数分解の鉄則 ①共通因数を取り出す因数分解 ②公式の利用③置換の利用 平方根とその計算ができるようになる。	中学校までに学習した内容を復習する。 乗法公式は確実に覚えるようにする。因数分解の公式は確実に覚え，自由に使えるようになる。 平方根を含む式の計算法則を覚える。分母の有理化ができるようになる。	中間考査 期末考査
	【課題・提出物等】　1．基本計算プリント　2．問題集スタディノート　3．春休み課題 4．小テスト　5．定期考査				
	【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
二学期	3節　方程式と不等式 ①1次方程式 ②不等式 ③不等式の性質 ④1次不等式 ⑤連立不等式 ⑥不等式の利用 2章　2次関数 1節　関数とグラフ ①1次関数とそのグラフ ②2次関数とそのグラフ	7 9 10 11	未知数を文字で表し，その文字を含む方程式を立て，それを解くことを理解する。1次方程式が解けるようになる。 数や式の大小関係を不等号や数直線を利用して表すことができるようになる。また，不等式の性質を利用して1次不等式を解くことができるようになる。さらに，連立不等式や不等式の応用も解けるようになる。 関数とは何か，関数の考え方を理解する。 1次関数とそのグラフを理解し，グラフがかけるようになる。 2次関数の式の意味が理解できるようになる。2次関数の基本形 $y=ax^2$ のグラフが理解でき，かけるようになる。 2次関数の一般形 $y=a(x-p)^2+q$	1次方程式，1次不等式は確実に解けるようになる。 連立不等式は数直線を利用して解けるようになる。 1次関数と直線のグラフの関係が理解できる。 2次関数と放物線のグラフの関係が理解できる。 2次関数の一般形 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフが理解できる。	中間考査

	２節　２次関数の値の変化 ①２次関数の最大値・最小値	12	のグラフが理解でき，頂点の座標や軸を利用して２次関数のグラフがかけるようになる。 ２次関数のグラフをかくことで，最大値・最小値を求めることができるようになる。	x の定義域でグラフがかけ，最大・最小が求められる。	期末考査
	【課題・提出物等】　１．基本計算プリント　２．問題集スタディノート　３．夏休み課題 ４．小テスト　５．定期考査				
	【２学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
三学期	②２次関数のグラフと２次方程式 ③２次関数のグラフと２次不等式	1 2 3	２次関数のグラフと２次方程式の解との関係が理解できる。 ２次関数のグラフを用いて２次不等式を解くことができる。	２次方程式の解の公式を利用できる。	学年末考査
	【課題・提出物等】　１．基本計算プリント　２．問題集スタディノート　３．冬休み課題 ４．小テスト　５．定期考査				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に５段階の評定にまとめる。					

（２）評価の観点，内容及び評価方法
学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・授業へ出席し，真剣に説明を聞き，板書内容をきちんと記録することができたか。 ・課題や提出物を期限内に提出できたか。	・授業の出席率 ・授業での発言や板書や学習態度 ・定期考査
思考・判断・表現	・定義や例題がきちんと理解できたか。 ・問題を解くとき，適切な公式が活用できたか。	・定期考査 ・提出物 ・課題問題
主体的に学習に取り組む態度	・授業中，学習内容の説明を聞き，それに関する発言や質問を積極的にすることができたか。 ・学習内容の定着のため，復習を中心に充実した家庭学習を行ったか。	・授業態度 ・プリントや問題集のとりくみ状況 ・提出物の提出状況
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・・・・A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・・・B 「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・・・・・・・・C		

3　担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	授業では，単元の課題に対して，周りの人と一緒に考え，理解する活動を行います。理解できた内容を自分のものとして定着させるために，問題集やプリントでの反復練習が必要になります。授業→家庭学習（復習）→授業…の習慣を確立することが重要です。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・教科書，問題集，プリント等授業に必要な物を準備すること。 ・板書事項や学習内容の要点をしっかり記録すること。 ・提出物は，指定された日に確実に提出すること。
その他	まちがいや分からないことをそのままにしていると，ますます理解が難しくなっていきます。その都度，先生や友達に質問したり，教えあったりしていくことが大切です。ねばり強く，コツコツと，あきらめずに基礎学力の向上に努力してください。その努力が，上級学年での学習や進路実現（就職･進学）に必ず役立つはずです。

（新課程用）

理科 （科学と人間生活）	単 位 数	２単位
	学科・学年	農林技術科・生活情報科・第１学年

1　学習到達目標等

学習の到達目標	１．自然と人間生活とのかかわり，および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について，身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ，科学的な見方や考え方を養うとともに，科学に対する興味・関心を高める。 ２．科学技術の発展が，今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。 ３．身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ，科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。 ４．自然と人間生活とのかかわり，および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて，これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。
使用教科書・副教材等	・教科書：高等学校　新科学と人間生活　　（第一学習社） ・副教材：ネオパルノート　科学と人間生活　（第一学習社）

2　学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学期	単元名 学習内容	月	学習のねらい 評価規準	備考 (学習活動の特記事項他)	考査
一学期	序章 科学技術の発展 1.情報伝達技術の発展 2.エネルギー資源の活用と交通手段の発展 3.医療技術の発展 第Ⅰ章　物質の科学 ◎第１節　材料とその利用 第２節　衣料と食品	4 5 6 7	・科学技術の発展が今日の生活を豊かで便利にしてきたことに貢献し，社会の変化に影響を与えてきたことを，身近な科学技術の例から理解する。 ・日常生活にみられる身近な物質の素材となる材料の種類，性質，および用途について理解する。（特にプラスチックと金属について） ・資源の再利用方法に関心を抱き，再利用の必要性について科学的に認識する態度を身につける。	●様々なプラスチックの確認 ●金属の精錬	中間考査 期末考査
	【課題・提出物等】　・GW 課題　・小テスト　・授業ノート　・課題レポート等				
	【第1学期の評価方法】 学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
二学期	第Ⅱ章　生命の科学 第１節　ヒトの生命現象 ◎第２節　微生物とその利用 第Ⅲ章　熱や光の科学 ◎第１節　熱の性質とその利用 第２節　光の性質とその利用	9 10 11 12	・DNA の構造，タンパク質の合成，血糖濃度の調節，免疫のしくみ，多様な微生物と生態系でのはたらき，微生物と人間生活とのかかわりについて理解する。 ・微生物の有効活用について学習し，これからの微生物の有効活用と人間生活のあり方について理解する。 ・熱の性質やエネルギーの変換と保存，有効利用，および光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解する。 ・省エネルギーの試みや，代替エネルギーの開発について，関心をもって知識を習得する。	●顕微鏡の使用方法 ●アルコール発酵習 ●熱伝導 ●エネルギーの変換	中間考査 期末考査
	【課題・提出物等】　・夏休み課題　・小テスト　・授業ノート　・課題レポート等				
	【第2学期の評価方法】 学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				

三学期	第Ⅳ章　地球や宇宙の科学 　第１節　自然景観と自然災害 ◎第２節　太陽と地球 第Ⅴ章　これからの科学と人間生 　課題の設定と研究の進め方	1 2 3	・身近な自然景観の成り立ちと自然災害，および太陽や月などの身近にみられる天体と人間生活とのかかわり，太陽系における地球について理解する。 ・暦に関心をもち，太陽の動きから現在も使用されている暦が形成されたことを理解する。 ・自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえ，これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察する。	●光の照射による温度変化 ●モデルによる天体の観察	学年末考査
	【課題・提出物等】　・冬休み課題　・小テスト　・授業ノート　・課題レポート等				
	【第３学期の評価方法】 学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
【年間の学習状況からの評価方法】 各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に５段階の評定にまとめる。					

（2）評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	科学技術の発展の人間生活への貢献，身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ，これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。 また，身近な事物・現象に関する観察，実験の技能を習得するとともに，それらを科学的に探究する方法を身につける。	・発問評価 ・ノート提出 ・定期考査 ・小テスト ・提出課題
思考・判断・表現	身近な事物・現象の中に問題を見出し，観察，実験，調査などを行って得た結果について，科学的に思考し，判断する。そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・定期考査 ・提出課題
主体的に学習に取り組む態度	身近な事物・現象に関心や探究心をもち，科学的な視点・考察力を養うとともに，科学技術に対する関心を高める態度を身につける。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・提出課題
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・・・・A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・・・B 「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・・・・・・・・C		

3　担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・教科書やワークの内容について，分からない言葉を質問しましょう。インターネット等で調べるのも良いです。 ・日常生活の中の科学的な事象について，興味を持って観察・分析・探求する視点を持ちましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・中学校の理科とは異なる部分もあるので，苦手だった人も気持ちを切り替えて取り組めば力がつきます。 ・進路や資格を含めた幅広い一般常識が身につきます。しっかり集中して学習しましょう。
その他	・「科学と人間生活」を通して，「勉強のやりかた」の勉強もしていきましょう。授業の内容は，２年次の「生物基礎」，３年次の「化学基礎」につながっていきます

体　育	単位数	３単位
	学科・学年	農林技術科・生活情報科　第１学年

1　学習到達目標等

学習の到達目標	各種の運動の合理的な実践を通して，運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに，身体の調子を整え，体力の向上を図り，公正，協力，責任などの態度を育て，生涯を通じて計画的に運動ができる資質や能力を習得する。
使用教科書・副教材等	現代高等保健体育（大修館）・アクティブスポーツ（大修館）

2　学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学期	単元名 学習内容	月	学習のねらい 評価規準	備考 (学習活動の特記事項他)	考査
一学期	体つくり運動 体ほぐしの運動 選択Ⅰ(球技) ・バレーボール ・バドミントン ・ソフトボール	4 5	・手軽な運動を行い，心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき，仲間と自主的に関わり合うこと。 ・バレーボールとバドミントンでは，状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。 ・ソフトボールでは，安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作，連携した守備などによって攻防を展開できる。		
	体育理論	6 7	1　スポーツがどのように始まったのか，なぜスポーツが世界中に広まったのかを説明できる。 2　運動との比較から文化としてのスポーツの特徴や，多様なかかわり方によるスポーツ文化の変容について理解し，説明することができる。		
	【課題・提出物等】　特になし				
	【第１学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
二学期	陸上競技 体つくり運動 実生活に生かす運動の計画 選択Ⅱ バスケットボール ソフトボール テニス	9 10 11	・短距離走・リレーでは，中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分高めること，長距離走では，自己に適したペースを維持して走ること，ハードル走では，スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。 ・ねらいに応じて，健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組むこと。 ・バスケットボールでは，安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる。 ・ソフトボールでは，安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作，連携した守備などによって攻防を展開できる。 ・テニスでは，役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。		

	体育理論	12	3　オリンピズムとオリンピックの価値や，パラリンピックの価値について具体れを挙げ，パラリンピックの意義について説明できる。 4　スポーツが経済活動でどのような役割を果たしているか，スポーツにかかわる業種について例を挙げて説明できる。		
	【課題・提出物等】　特になし				
	【２学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
三学期	選択Ⅲ サッカー バドミントン テニス 体育理論	1 2 3	・サッカーでは，安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携したうごきによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる。 ・バドミントンとテニスでは，役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。 5　スポーツの高潔さを脅かす要因やドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる。 6　スポーツにおける環境問題について例を挙げ，スポーツは環境とどのように調和していけばよいのか説明できる。		
	【課題・提出物等】　特になし				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に５段階の評定にまとめる。					

（２）評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・運動の多様性や体力の必要性について理解しているか。 ・運動の技能が身に付いているか。	・ワークシート ・実技テスト
思考・判断・表現	・課題を発見し，解決に向けて思考・判断しているか。 ・自己や仲間の考えたことを他者に伝えられているか。	・話し合い活動 ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	・準備，片付け等仲間と協力して行っているか。 ・健康・安全を確保しているか。	・授業態度
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・・・・A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・・・B 「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・・・・・・・・C		

3　担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・基本動作をしっかり習得することが，高度な技術へ発展していきます。基本を嫌がらず，正しい構え，正しい動き，正しい操作を心がけましょう。 ・毎時間，自己・チームの課題を振り返り，次時の課題解決につなげるようにしましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・忘れ物をしない。（授業を受けられません） ・遅刻をしない。（チーム編成等周りに迷惑がかかります） ・自分勝手な行動をしない。（けがや事故につながります）
その他	

（新課程用）

保　　健	単位数	1単位
	学科・学年	農林技術科・生活情報科　第1学年

1　学習到達目標等

学習の到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め，生涯を通じて自らの健康を適切に管理し，改善していくための資質や能力を育てる。
使用教科書・副教材等	現代保健体育（大修館　保体　７０１） 現代高等保健体育ノート（大修館　保体　７０１）

2　学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学期	単元名 学習内容	月	学習のねらい 評価規準	備考 (学習活動の特記事項他)	考査
一学期	オリエンテーション 健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康	4 5 6 7	・さまざまな健康の考え方や健康を成り立たせている要因について例を挙げて説明できる。 ・わが国の健康水準の変化とその背景や現在の健康問題について例を挙げて説明できる。 ・生活習慣病の種類と要因と一次予防，二次予防について例を挙げて説明できる。 ・がんの種類や原因，がんの一次予防と二次予防について例を挙げて説明できる。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明したり，がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明したりすることができる。 ・健康と運動の関係や目的に応じた健康的な運動のしかたについて例を挙げて説明できる。 ・食事と健康の関係や健康的な食事のとり方について説明できる。 ・健康と休養，睡眠の関係及び適切な休養のとり方，健康によい睡眠のとり方について説明できる。 ・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明したり，喫煙対策について，個人と社会に分けて例を挙げて説明したりすることができる。	教科書 6頁～29頁	
	【課題・提出物等】　現代高等保健体育ノート（大修館　保体　７０１）				
	【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。 ※単元ごとに確認テストを行う。（知識・技能，思考力・判断力・表現力） ※授業における態度や授業ノートの取り組み等を評価する（知識・技能，思考力・判断力・表現力，態度）				
二学期	飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴	9 10	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響や飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例を挙げて説明できる。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響についてと薬物乱用のための個人や社会環境への対策例を挙げて説明することができる。 ・精神疾患の例を挙げ，発病の要因と		

	精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり	11 12	おもな症状について説明し，現代社会における精神保健の課題を挙げることができる。 ・精神疾患を予防方法と精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。 ・精神疾患の治療について例を挙げて説明したり，適切な治療や回復のためには，どのような社会環境が必要か説明したりすることができる。 ・感染症の潜伏期間，感染力や新興感染症と最高感染症が流行する要因を説明できる。 ・感染症の予防対策三原則や，感染症への個人と社会の対策について例を挙げて説明できる。 ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点やその対策について個人と社会に分けて例を挙げることができる。 ・意思決定，行動選択に影響を与える要因や健康に関する適切な意思決定，行動選択の際の工夫について例を挙げて説明できる。 ・社会環境の健康への影響や，ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	教科書 30 頁～55 頁	
	【課題・提出物等】　現代高等保健体育ノート（大修館　保体　７０１）				
	【２学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。 ※単元ごとに確認テストを行う。（知識・技能，思考力・判断力・表現力） ※授業における態度や授業ノートの取り組み等を評価する（知識・技能，思考力・判断力・表現力，態度）				
三学期	事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	1 2 3	・事故の実態と被害の実態についてと事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例を挙げて説明できる。 ・安全のために必要な個人の行動についてとすべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例を挙げて説明できる。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例を挙げ，交通事故における責任を３つに分けて説明できる。 ・応急手当の意義について説明し，傷病者を発見したときに，確認・観察するポイントを挙げることができる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明し，実際に，日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。 ・心肺蘇生法の方法と手順について説明し，実際に，心肺蘇生法をおこなうことができる。	教科書 60 頁～73 頁	
	【課題・提出物等】　現代高等保健体育ノート（大修館　保体　７０１）				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。 ※単元ごとに確認テストを行う。（知識・技能，思考力・判断力・表現力） ※授業における態度や授業ノートの取り組み等を評価する（知識・技能，思考力・判断力・表現力，態度）				

【年間の学習状況からの評価方法】
※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に５段階の評定にまとめる。

（2）評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解しているか。 ・健康や安全についての技能が身に付いているか。	・確認テスト ・授業ノート ・実技
思考・判断・表現	・健康についての課題を発見し，解決に向けて思考・判断しているか。 ・自己や仲間の考えを他者に伝える力があるか。	・確認テスト ・授業ノート ・話し合い活動等
主体的に学習に取り組む態度	・授業に意欲的に取り組み，ノートをとっているか。 ・期限内に提出物を出しているか。	・授業態度 ・授業ノート ・提出物

【観点別学習状況の評価】
「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・・・・A
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・・・B
「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・・・・・・・・C

3　担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・授業に積極的に参加し，内容を自分のことと捉え，現在だけでなく将来，健康に生活するための知識や思考力，行動力を身につけましょう。 ・日常生活やニュース等と関連づけながら学習することで，より身近に感じ，知識が身につきます。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・教科書，ノートを必ず持参する。（ノートのチェックができません） ・積極的に発言をしましょう。 ・週１回の授業です。欠席すると，確認テストへの影響等があります。
その他	

学　年	コース	教　科	科　目		単位数
１年	全　文　理	芸術	音楽Ⅰ	必修　選択	２
学習目標	音楽の幅広い活動を通して，音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
使用教材	「ＭＯＵＳＡ１」　教育芸術社　　（随時プリント用意） 「クラシックギター・コース１」　ヤマハ音楽振興会				
学習方法	楽典の学習から始め，表現（歌唱・器楽），鑑賞，創作の活動を通して，音楽への理解を深め、愛好する心情を育てる。				

評　価　の　観　点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け，歌唱，器楽，創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように表すかについて表現意図をもったり，音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評　価　の　方　法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○授業時の観察　○学習内容ごとの筆記テストや実技テスト　○ノートやプリント	○授業時の観察　○学習内容ごとの筆記テストや実技テスト　○ノートやプリント	○授業時の観察　○学習内容ごとの筆記テストや実技テスト　○ノートやプリント
その他	音楽は目に見えないので集中して取り組むこと。 様々なジャンルの音楽を扱う。好き嫌いを問わず，まずは感じる事，味わう事が大切。	

年　間　学　習　計　画				
月	学習内容	学習のねらい	考査範囲	自己評価
4	楽典（楽譜の書式）	楽譜の基本的な書式を理解する。	１学期	
5	合唱　「翼をください」 「校歌」	音楽に記されている基本的な知識を確認・理解する。 曲の特徴を理解し感受して歌う。		
6	リズムの理解と実践	リズムの基礎を理解し，リズム遊びを通してリズムの楽しさを感受する。		
7	ハンドベル	上記の学習で学んだことを生かして簡単な楽曲を演奏することで，仲間とともに演奏することの楽しさを知る。		

9	クラシックギター１ （喜びのうた）	ギターの基本的な知識を学習し，簡単な楽曲を演奏する。	２学期	
１０	コードの学習	和音の構成とコードネームの成り立ちを理解する。		
１１ １２ １	メロディーの学習 創作	メロディーとコードの関係を理解する。 既存曲のコード進行を使って簡単な楽曲を創作する。 非和声音を使って最終作品を完成させ演奏する。		
2	クラシックギター２ ２重奏(かっこう等)	２重奏や伴奏パートを演奏してアンサンブルを楽しむ。	３学期	
3	管弦楽曲鑑賞 指揮者体験	管弦楽曲を鑑賞するとともに指揮者の役割を理解する。		

【自己評価】　A よくできた　B ややできた　C あまりできなかった　D 全くできなかった

学　年	コース	教　科	科　目		単位数
１年	全	芸術	音楽Ⅰ	選択	2

育てたい資質・能力	各科目における活動内容
1学力	(1)授業をとおして，楽譜を読む・書く力を身につける。 (2)歌唱や器楽等の表現活動をとおして，楽曲にふさわしい発声や奏法を身に付ける。 (3)鑑賞活動をとおして，多様な音楽を理解し，音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりを理解することができる。
2情報活用能力	(1)レポート作成に際し，インターネット等を活用した調査・研究を通して，テーマ等に対して自分の考えをまとめることができるようになる。
3適切に判断する力	(1)鑑賞や音楽史をとおして，身近な社会の課題等に対し自分にできることを判断し，行動出来るようになる。
4発信力	(1) グループ活動での発表活動をとおして，自分やグループの意見をまとめて発表できるようになる。
5協働力	(1)グループ活動をとおして，誰とでも協力し学び合う態度を身につける。
6コミュニケーション力	(1)個人やグループ活動での発表をとおして，自分やグループの考えを表現できるようになる。
7チャレンジし、やりぬく力	(1)歌唱や器楽等の練習をとおして，楽曲を演奏できるようになるまで努力する態度を身に付ける。
8自治能力	

月	学習内容	育てたい資質・能力							
		1	2	3	4	5	6	7	8
4	合唱	○			○	○	○	○	
	楽典(楽譜の基礎書式)	○			○	○	○	○	
5	リズムの学習	○			○	○	○	○	
6	ハンドベル	○			○	○	○	○	
7	リズムの学習	○			○	○	○	○	
9	クラシックギター１	○			○	○	○	○	
10	コードの学習	○			○	○	○	○	
11	メロディーの学習	○			○	○	○	○	
12	創作１	○			○	○	○	○	
1	創作１	○			○	○	○	○	
2	クラシックギター２	○			○	○	○	○	
3	鑑賞(３要素のまとめ・管弦楽曲)	○	○	○	○	○	○	○	

学　年	コース	教　科	科　目		単位数
１年	全　文　理	芸術	美術Ⅰ	必修　選択	２
学習目標	１　美術の幅広い表現や鑑賞の活動を通して,美術的な感覚（感性）を養う。 ２　美術作品に込められた思いを読み取り，批評する能力を養う。				
使用教材	「高校生の美術１」日本文教出版　（随時プリント用意）				
学習方法	１　表現・・デッサン,模写，塑像など絵画や彫刻の作品とレタリング，コラージュなどのデザインの作品を制作する。 ２　鑑賞・・各分野の有名な芸術家の作品を鑑賞する。 ３　実用的な活動・・文化祭やギャラリー等に展示。				

評　価　の　観　点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表わしている。	造形的なよさや美しさ，表現の意図について考え，主題を生成し創造的に発想し構想を練ることができる。自らの価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

評　価　の　方　法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○授業時の観察 ○学習内容ごとの作品提出	○授業時の観察 ○学習内容ごとの作品提出	○授業時の観察 ○ノートやプリント

その他	１　教科書，スケッチブックは必ず自分の物を用意し，大切に扱う。 ２　授業では課題の説明をよく聞き，理解して実技に取り組む。 ３　課題作品は必ず時間内に提出する。

年　間　学　習　計　画				
月	学習内容	学習のねらい	考査範囲	自己評価
4 5	It’s my name!	明朝体の特徴を理解する。 配置や色彩を工夫しつつ、文字や文字の間隔を正確に理解する。	１学期期末考査	
6 7	模様をデザインしよう	模様の仕組みや目的を理解し、自らの意図に沿った作品を制作できる。		
9	デッサンする目 ～観察力を磨こう～	対象の正確な形や質感を観察し、素描できる技術を習得する。	２学期期末考査	
１０ １１	模写 ～描写力を学ぼう～	模写とコピーの違いについて理解する。 対象をよく観察し，描写する技術を習得する。		
12	アクセサリーをつ	自然物や人工物、自らの感情など		

	くろう	から形を創造する。 材料とも用具の特性を生かして制作できる。		
1	かたちづくる ～平面から立体～	対象をよく観察する力を習得する。 生き物の骨格を理解し，形づくる技術を習得する。	３学期 学年末 考査	
2				
3	１年間の学習のまとめ	１年間の学習を振り返り確認する。		

【自己評価】　A よくできた　B ややできた　C あまりできなかった　D 全くできなかった

育てたい資質・能力	各科目における活動内容
1学力	(1) 授業をとおして，対象を観察する力・表現する力を身に付ける。 (2) 作品制作をとおして，必要な知識・技術を習得し，自分なりの表現をすることができる。 (3) 鑑賞活動をとおして，美術の文化や歴史を理解することができる。
2情報活用能力	(1)レポート作成に際し，ネット等を活用した調べ学習を通して，テーマ等に対して自らの考えをまとめることができるようになる。
3適切に判断する力	(1)鑑賞活動や現代の美術の在り方をとおして，身近な社会の課題等に対し自分にできることを判断し，行動できるようになる。
4発信力	(1)鑑賞活動での発表をとおして，自らの意見を発表できるようになる。
5協働力	(1)鑑賞活動をとおして，誰とでも協力し学び合う態度を身に付ける。
6コミュニケーション力	(1)作品制作や鑑賞活動をとおして，自らの考えや他の人の考えを理解する能力を身に付ける。
7チャレンジし、やりぬく力	(1)作品制作をとおして，作品を完成させられるように努力する態度を身に付ける。
8自治能力	

月	学習内容	育てたい資質・能力							
		1	2	3	4	5	6	7	8
4	It’s my name!	○			○	○	○	○	
5		○			○	○	○	○	
6	模様をデザインしよう	○			○	○	○	○	
7		○			○	○	○	○	
9	デッサンする目～観察力を磨こう～	○			○	○	○	○	

10	模写～描写力を学ぼう～	○			○	○	○	○	
11		○			○	○	○	○	
12	アクセサリーをつくろう	○			○	○	○	○	
1	かたちづくる～平面から立体～	○			○	○	○	○	
2		○			○	○	○	○	
3	１年間の学習のまとめ	○	○	○	○	○	○	○	

鹿児島県立伊佐農林高等学校

教科　芸術 科目名　書道Ⅰ	指導学年　1年	使用教科書　光村図書　書Ⅰ

学習の目標
・書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解する。 ・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 ・書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫する。 ・作品や書の伝統と文化の意味や価値を考える。 ・書の美を味わい芸術としての「書」を捉えることができるようにする。

	学習の内容		評価の観点
1学期	書写から書道へ 漢字の書	書道における基礎知識を確認し、書写との違いを認識する。 古典の臨書・鑑賞を通して、技法や表現力を習得する。	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
2学期	仮名の書	用筆上の特徴や表記の特徴などを理解し、基本的な筆使いを習得する。	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
3学期	漢字仮名交じりの書	表現方法のポイントを学習し、作品の構想に生かす。	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

学習の方法
ワークシート、練習、清書

評価方法	
知識・技能	ワークシート
思考・判断・表現	作品
主体的に学習に取り組む態度	授業態度
学習状況	A「十分満足できる」　B「おおむね満足できる」　C「努力を要する」

外国語 英語コミュニケーションⅠ	単　位　数	２単位
	学科・学年	農林技術科・生活情報科　第１学年

1　学習到達目標等

学習の到達目標	１．中学校の英語学習を踏まえ，高校の英語学習の基礎を培う。 ２．言語活動において，得た情報や相手の考えを的確に理解する。 ３．言語活動において，伝えたい情報や考えを適切に相手に伝える。
使用教科書・副教材等	・教科書：VISTA English Communication Ⅰ（三省堂） ・副教材：Prep English プレップイングリッシュ［改訂版］（旺文社）

2　学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学期	単元名 学習内容	月	学習のねらい 評価規準	備考 (学習活動の特記事項他)	考査
一学期	Get Ready! ① Get Ready! ② Get Ready! ③ Get Ready! ④	4	●アルファベットを正確に読み書きできる。 ●単語を正確に書ける。 ●辞書の引き方を理解している。 ●基本的な教室内での会話を学ぶ。 （Lesson に入る前の，基礎の確認）	●文字，単語 ●辞書の活用	中間考査 期末考査
	ののちゃんの英文法 『橋渡し教材』の復習①	5	●英語の基本的なルールと語順の定着。	●基本的な文法の確認	
	L.1 Colors of Spring		●春について，理解して考えを深めることができる。 ●色/春についてやりとりができる。	●be 動詞，一般動詞の現在形	
	『橋渡し教材』の復習②	6	●英語の基本的なルールと語順の定着。	●基本的な文法の確認	
	※『Prep English』 （夏休み課題）	7	●基礎的な文法事項の演習。 ●学習のやり方の確認。 （８～３１ページ）	●副教材プレップイングリッシュ	
	【課題・提出物等】 入学前課題，授業ファイル，授業で使ったプリント，テスト訂正など				
	【第１学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
二学期	L.2 Dick Bruna	9 10	●ディック・ブルーナさんについて，理解して考えを深めることができる。 ●キャラクター／本についてやりとりができる。	●be 動詞，一般動詞の過去形	中間考査 期末考査
	L3 Interesting Sports	11	●おもしろいスポーツについて，理解して考えを深めることができる。 ●スポーツ／過去の行動についてやりとりができる。	●現在進行形，過去進行形	
	※Look and Learn 1	12	●基本的な文法事項の確認。	●代名詞，基本文型，肯定文，否定文，疑問文，命令文	
	※『Prep English』 （冬休み課題）		●基礎的な文法事項の演習。 （３２～４５ページ）	●副教材プレップイングリッシュ	
	【課題・提出物等】夏休み課題，授業ファイル，授業で使ったプリント，テスト訂正など				
	【２学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				

三学期	L4 Pictogram	1 2 3	●ピクトグラム／ジェスチャーの役割について，理解して考えを深める。 ●オリンピック／ピクトグラム／自分のできることについてのやりとりや趣味について発表できる。	●助動詞・動名詞	学年末考査
	※『Prep English』 （春休み課題）		・基礎的な文法事項の演習 （４６～６１ページ）	・副教材プレップイングリッシュ	
	【課題・提出物等】 冬休み課題，授業ファイル，授業で使ったプリント，テスト訂正など				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				

【年間の学習状況からの評価方法】
※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に５段階の評定にまとめる。

※印は進度上省く場合あり。○副教材『プレップイングリッシュ』は定期考査や長期休みの前などに使用します。

（2）評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・日常的な話題についての英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているか。 ・その背景にある文化などを理解しているか。	・定期考査 ・ワークシート ・発表の内容や仕方
思考・判断・表現	・日常的な話題について，英語を聞いたり，読んだりして，情報や考えなど相手が伝えようとしていることを理解しているか。 ・日常的な話題について，情報や考えなど自分の伝えたいことを英語で話したり，書いたりして表現することができているか。	・定期考査 ・ワークシート ・授業態度 ・発表の内容や仕方
主体的に学習に取り組む態度	・コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとしている。 ・誤りを恐れずに，英語を使おうとしているか。	・学習活動への参加 ・授業態度 ・ワークシート

【観点別学習状況の評価】
「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・・・・A
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・・・B
「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・・・・・・・・C

3　担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	中学校で既習の語彙や文法の定着を図り，高校で学ぶ語彙，表現，文型，文法事項についての基本的な事項を学ぶ学習です。聞く，読む，話す（やりとり），話す（発表），書くといった５領域の力をバランスよく伸ばし，思考力を育むことを目標として，授業で行う活動に主体的に取り組むようにしてください。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	教科書，ファイル，単語帳，辞書等の教材の準備をしっかりして忘れ物がないようにしてほしいと思います。また，長期休業中や連休，自宅学習期間の各課題や定期考査の訂正を確実に提出するようにしてください。授業内容に興味・関心を持ち，授業に集中して臨みましょう。
その他	教科書の内容に関連した言語活動では，基本的な語句や文を用いて自分の考えを話して伝えたり，相手からの質問に答えたりといった活動を行いますので，繰り返し練習して自然と発話できるように身につけましょう。

（新課程用）

家庭基礎	単位数	2単位
	学科・学年	農林技術科・第1学年

1　学習到達目標等

学習の到達目標	生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解と技能を身に付け，課題を解決する力や，生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことにより，家族や地域の生活を創造する資質・能力を育てる。
使用教科書・副教材等	使用教科書：家庭基礎(実教出版) 家庭基礎学習ノート(実教出版)

2　学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学期	単元名 学習内容	月	学習のねらい 評価規準	備考 (学習活動の特記事項他)	考査
一学期	オリエンテーション ホームプロジェクト 学校家庭クラブについて 第1章　人生について考える 1　自分の未来予想図を描こう ～生涯発達と発達課題～ 2　これからの人生をデザインする 第2章　自分らしい生き方と家族 1　自立と共生 2　ライフキャリア 3　共に生きる家族 4　家族に関する法律 第5章　食生活をつくる 1　日本の食文化の形成 2　私たちの食生活	4 5 6 7	・1年間の学習内容について確認する。 ・家庭科の学習を通して身の回りの課題を発見し，解決・改善することができるようになる。 ・自立に向けて生活設計を工夫することができる。 ・自己と他者のライフスタイルや職業生活のあり方について考える。 ・婚姻，夫婦，親子などの家族に関する法律について理解できる。 ・日本の食文化の成り立ちや和食の特徴を理解する ・食生活を振り返り，食事の果たす役割や食生活の問題点について考える。		中間考査 期末考査
	【課題・提出物等】　被服作品，課題プリント，学習ノート，学習プリントの提出				
	【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
二学期	3　栄養と食品のかかわり 4　食品の選び方と安全 5　食事の計画と調理 6　これからの食生活を考える	9	・栄養素の種類と機能を理解する。 ・正しくかつ安全な食品の選び方が分かり，食生活を安全で衛生的に営めるようになる。 ・　栄養的にバランスのとれた食事を具体的に考えることができるようになり，安全と衛生に配慮した調理実習ができる。	○調理実習	中間考査

	第３章　子どもとかかわる １　子どもとは ２　子どもの発達 ３　子どもの生活 ４　子どもをはぐくむ ５　子どものための社会福祉 第４章　高齢者とかかわる １　高齢社会に生きる ２　高齢者を知る ３　高齢者の自立を支える ４　高齢社会を支えるしくみ 第５章　社会とかかわる １　支えあって生きる ２　共生社会を生きる 第７章　衣生活をつくる １　人と衣服のかかわり ２　衣服の素材の種類と特徴 ３　衣服の選択から管理まで ４　持続可能な衣生活をつくる ５　衣服の構造・デザイン	10 11 12	・子どもの育つ力と発達段階を知り，生理的特徴について理解できる。 ・遊び，基本的生活習慣の形成，食事，健康管理について理解する。 ・児童福祉の理念を理解し，子育て支援の現状が分かった上で，今後の子育てについて考える事ができる。 ・日本の高齢化の特徴と課題を知り，高齢期の心身の特徴，個人差について理解できる。 ・高齢者を支える家族の役割，介護の必要な高齢者を支える地域及び社会の福祉サービス，高齢者福祉施設などが分かる。 ・被服材料の特徴を理解し，組成表示・取扱い表示・サイズ表示などの意味を理解する。 ・汚れ落ちの仕組みを理解し，被服に適した洗濯や保管方法を実践できる。 ・環境に配慮した衣生活を営めるようになる。		期末考査
	【課題・提出物等】　課題プリント，学習ノート，学習プリントの提出				
	【２学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
三学期	第８章　住生活をつくる １　人間と住まい ２　住まいの文化 ３　住まいを計画する ４　健康に配慮した室内環境 ５　安全な住まい ６　持続可能な住まいづくり 第９章　消費行動を考える １　消費行動と意思決定 ２　消費生活の現状と課題 ３　消費者の権利と責任 ４　ライフスタイルと環境 第10章　経済的に自立する １　暮らしと経済 ２　将来のライフプランニング	1 2 3	・住まいの機能を理解し，家族の生活に応じた適切な住居について考える。 ・防火，防犯，耐震など住まいの安全性について考える。 ・誰もが住みやすい住環境について考え，よりよい住生活を創造できる。 ・契約，消費者信用，悪徳商法などについて正しく理解し，消費者として適切な意思決定ができる。 ・クレジットカードの使用法を理解する。 ・持続可能な社会をめざして消費者としてどうのように行動すればよいか考える。		学年末考査
	【課題・提出物等】　課題プリント，学習ノート，学習プリントの提出				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				

【年間の学習状況からの評価方法】
※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に５段階の評定にまとめる。

（2）評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	家庭生活を主体的に営むために必要な，家庭科の各分野に関する基礎的な知識を身につけ理解するとともに，それらに係る技能を身につけている。	・学習プリントなどの提出物 ・定期考査 ・課題や作品
思考・判断・表現	家庭生活に関する各分野について，生活の中から課題を見つけ，生涯を通してより向上するために工夫し自ら考え選択することができる。	・学習プリントなどの提出物 ・課題や作品 ・発表の内容
主体的に学習に取り組む態度	家庭生活に関する各分野において，興味・関心を持ち，自分や家庭，地域と関連させながら授業に積極的に参加している。	・学習活動への取組みや態度 ・学習プリントなどの提出物

【観点別学習状況の評価】
「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・・・・A
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・・・B
「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・・・・・・・・C

3　担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・　毎時間の授業を真剣な態度で受ける。 ・　学習した内容を実生活の中で活用，実践する。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・　実習中は，安全に留意して落ち着いて行動する。 ・　調理実習室，被服実習室でのマナーを守り，道具は丁寧に扱う。 ・　授業に遅れないこと
その他	家庭科は，生活の中で役立つ知識や技術を学ぶことができる教科です。授業で分からないことは，質問して理解するよう努力しましょう。実習は，安全を第一に生活に役立つ技術や知識が身につくよう心がけ，楽しんで取り組みましょう。

家庭基礎	単 位 数	３単位
	学科・学年	生活情報科・第１学年

1　学習到達目標等

学習の到達目標	１人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ２家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。 ３家庭科技術検定食物調理４級および３級の取得。
使用教科書・副教材等	家庭基礎（実教） 家庭基礎学習ノート（実教） 家庭科問題集　基礎編（全国高等学校家庭科教育振興会）

2　学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	単元名 学習内容	月	学習のねらい 評価規準	備考 (学習活動の特記事項他)	考査
一学期	オリエンテーション ホームプロジェクト 学校家庭クラブについて	4	・一年間の学習内容を確認する。 ・ホームプロジェクト，家庭クラブについて理解する。		中間考査
	第１章　人生について考えてみよう １　自分の未来予想図を描こう ２　これからの人生をデザインする		・各ライフステージにおける発達課題について知る。		
	第２章　自分らしい生き方と家族 １　自立と共生 ２　ライフキャリア ３　共に生きる家族 ４　家族に関する法律	5 6	・自立した生活をするために何ができるかを考え，理解する。 ・将来への目標を立て，意思決定の力を高める。 ・家庭の機能と現代の家族の特徴を理解する。 ・婚姻，夫婦，親子などの家族に関する法律について理解する。	○食物４級検定練習	期末考査
	第７章　衣生活をつくる ２　衣服の素材の種類と特徴 ３　衣服の選択から管理まで ４　持続可能な衣生活	7	・被服材料の特徴を理解し，組成表示・取扱い絵表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ・汚れ落ちの仕組みを理解し，被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ・生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 ・環境に配慮した衣生活について理解する。	○食物４級検定実施（実技）	
	【課題・提出物等】　被服作品，課題プリント，学習ノート，学習プリントの提出				
	【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
二学期	第６章　食生活をつくる １　日本の食文化 ２　私たちの食生活 ３　栄養と食品のかかわり	7 9	・日本の食文化の成り立ちや和食の特徴を理解する。 ・食生活を振り返り，食事の果たす役割や食生活の問題点について考える。 ・栄養素の種類と機能を理解する。 ・食品の栄養的特質と調理上の性質について理解する。 ・栄養のバランスのとれた食事を考えることが出来る。	○食物３級検定練習 ○食物３級検定実施（実技，筆記）	中間考査
	４　食品の選び方と安全		・食中毒の予防法を理解する。		

	5　食事の計画と調理 5　調理の基礎 6　これからの食生活を考える	10	・調理の基礎的な知識を身につけ，安全と衛生に配慮した調理実習が出来るようになる。 ・持続可能な食生活を営む力を身につける。	○調理実習 ・日本料理 ・中国料理	期末考査
	第３章　子どもとかかわる 1　子どもとは 2　子どもの発達 3　子どもの生活 4　子どもを育む	11	・子どもの育つ力と発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを理解する。 ・遊び，基本的生活習慣の形成，食事，健康管理について学ぶ。 ・子どもとの触れ合いを通して，愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・子どもを取りまく社会変化の状況について理解し考える。		
	第４章　高齢者とかかわる 1　高齢社会に生きる 2　高齢者を知る 3　高齢者の自立を支える 第５章　社会とかかわる 1　支えあって生きる 2　共生社会を生きる	12	・高齢者の生活と福祉の分野と関連させながら，バリアフリーの住宅や地域の住環境などについて理解する。日本の高齢化の特徴と課題について考える。 ・高齢者を支える家族の役割や介護の必要な高齢者を支える地域及び社会の福祉サービス，高齢者福祉施設などについて考える。		
	【課題・提出物等】　課題プリント，学習ノート，学習プリントの提出				
	【2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
三学期	第９章　消費行動を考える 1　消費行動と意思決定 2　消費生活の現状と課題 3　消費者の権利と責任 4　ライフスタイルと環境 5　消費者の権利と責任 6　これからの消費生活と環境	1	・家計の管理の方法や家計と国民経済の関わりについて理解する。 ・クレジットカードの使い方を理解する。 ・契約，消費者信用，悪徳商法について理解する。		学年末考査
	第 10 章　経済的に自立する 1　暮らしと経済 2　将来のライフプランニング	2	・消費者の権利と責任について理解する。 ・持続可能な社会をめざし消費者としてどのように行動すればよいか考える。		
	第８章　住生活をつくる 1　人間とすまい 3　住生活の計画と選択 6　持続可能な住生活	3	・家族の生活に応じた適切な住居について考える。 ・住まいの安全について考える。		
	【課題・提出物等】　課題プリント，学習ノート，学習プリントの提出				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				

【年間の学習状況からの評価方法】
※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

学習状況を，「知識・技術」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	家庭生活を主体的に営むために必要な，家庭科の各分野に関する基礎的な知識を身につけ理解するとともに，それらに係る技能を身につけている。	・ 定期考査 ・ 技術検定 ・ 授業で使用するプリント ・ 実習における作業の状況
思考・判断・表現	家庭生活に関する各分野について，生活の中から課題を見つけ，生涯を通してより向上するために工夫し自ら考え選択することができる。	・ 定期考査 ・ 授業で使用するプリント ・ 発言や発表の仕方，内容
主体的に学習に取り組む態度	家庭生活に関する各分野において，興味・関心を持ち，自分や家庭，地域と関連させながら授業に積極的に参加している。	・ 学習活動への参加の仕方や態度 ・ 実習への参加状況 ・ 課題に対する取り組み ・ 授業で使用するプリント

【観点別学習状況の評価】
「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・・・・A
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・・・B
「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・・・・・・・・C

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・ 授業の内容をしっかりと聞き，不明な点はそのままにせず質問をしましょう。 ・ 検定筆記試験を合格するためには問題集を繰り返し解くことが必要です。あきらめずに頑張りましょう。
授業を受ける時に守ってほしい事項	・ 授業に遅れないこと。 ・ エプロン，三角巾，マスク等の忘れ物をしないこと。 ・ 検定合格に向けて，主体的に行動し，勉強に励むこと。
その他	家庭基礎の授業では，食物技術検定の４級，３級の全員合格を目標に授業を行います。分からないことは，質問して理解するよう努力しましょう。実習は，安全を第一に生活に役立つ技術や知識が身につくよう心がけ，楽しんで取り組みましょう。